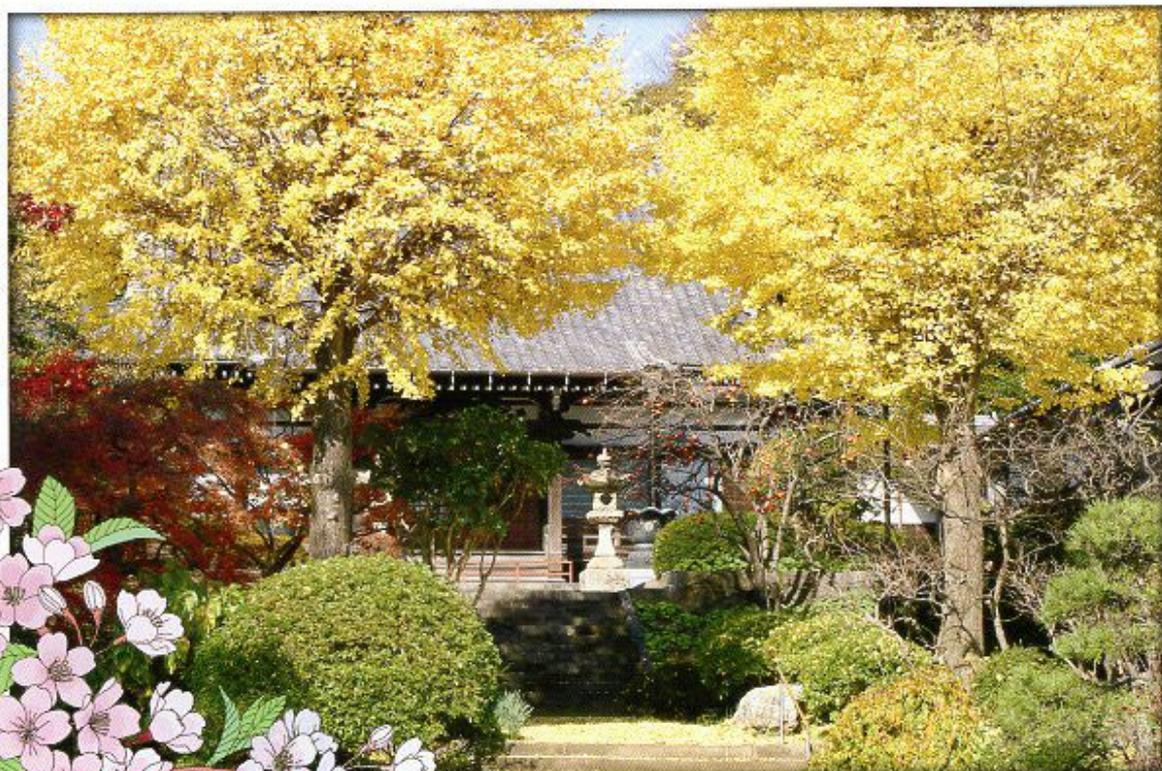


# 花の里づくりの会

第6号会報2010年4月1日発行



## 浄土宗 亀甲山 本覚院 専念寺

専念寺は浄土宗の一寺院であり、宗祖は法然上人、開宗は、今から八百年ほど前(鎌倉時代 承安五年)本尊「阿弥陀如来」を御本尊と仰ぎます。称名は「南無阿弥陀仏」とお称えし、教義は阿弥陀如来のお誓いを深く信じ、南無阿弥陀仏を称えることによって、どんな罪深い者でも一切の苦しみから救われ、明るい安らかな毎日を送ることが出来、そのままの姿で立派な人間へと向上し浄土に生まれることが出来る教えです。

当寺の由緒について「新編武蔵風土記稿」によれば慶長6年(1601)村民が開山に覚蓮社本譽耕公を招き字亀山(現亀の甲橋近隣)に建立したと伝えられ、後に現在地へ移されたとも云われているが「蓮門續舎旧誌」には天正12年(1584)の開山となっている。また、一説には新羽蓮華寺は永禄の頃(1558~1569)当寺の隠居所として建立されたとも伝えられている、尚説の間に年代的にかなりの隔たりがあり、その真相を知る事は出来ない。御本尊、阿弥陀如来は木立像にして長八寸余、慈覚大師の作。また、当寺は小机額三十三観音霊場の第十六番札所にあたり、立像聖観音(長1尺余)を安置している。

御詠歌 「たずねくる てらは南の専念寺 大慈大悲のちかひしるべに」

港北区新羽町 1578 専念寺 住職 照譽正元



ごあいさつ



会員の皆様には、おかわりなくお過ごしの事と存じます。

花の里づくりの会も平成十六年五月に発足してより、数多くの花木、宿根草、球根類を植え込んでまいりました。

又、新羽小学校の卒業記念植樹のお手伝いをしたり、県立新羽高等学校の情操教育活動の一環として花苗を提供しております。

このような活動に対して昨年五月に柏崎港北区長さんより「平成二十一年度港北 G30 行動及び清潔で美しい街づくり推進功労者」として表彰されました事をご報告させていただきます。

今後の計画としましては、毎年の予定植栽は元より、近いうちに皆様との懇親会、又良い時季を見計らいまして、見学会を行いたいと思っておりますので、その節には多くのご参加をお待ち申し上げます。

最後に皆様方のご健勝をお祈り申し上げ挨拶とさせていただきます。

花の里づくりの会 会長 中山 宏



21. 5. 15 港北区長よりの感謝状

平成 21 年度の植栽及び事業実績

◆新羽駅周辺街づくり協議会◆

地区計画におけるポケットパークへの花の苗の協力：年 2 回

◆ 県立新羽高等学校 ◆

通学路の美化整備の花の苗の協力：年 2 回

◆市立新羽小学校卒業記念樹◆ 計4回

ザクロ 2本

◆善教寺◆

ロウバイ 10本、雪柳 10株、テッポウユリ 50球

◆光明寺◆

梅 10本、ヤマブキ20本

◆西方寺◆

ツバキ 15本



平成 22 年度の植栽及び事業予定

◆新羽駅周辺街づくり協議会◆

地区計画におけるポケットパークへの花の苗の協力：年 2 回

◆県立新羽高等学校◆

通学路の美化整備の花の苗の協力：年 2 回

◆市立新羽小学校卒業記念樹◆ 計5回

未定 2本

◆専念寺◆

境内整備が終わり次第、モミジと桜を中心として植える

◆光明寺◆

シャクヤク 30株、ヒガンバナ 100球(赤・黄)

◆杉山神社◆

必要があれば植える

◆西方寺◆

ヒガンバナ 300球(赤・黄)・ツバキ(増植)・多種の下草

◆善教寺◆

モミジ(赤1本、高さ2~3m)

◆その他◆

枯れた木などの補植



新羽丘陵公園での卒業記念植樹



No. \_\_\_\_\_

私たちの小学校生活は多くの人に応援してもらいました。そして今日の記念植樹も、たくさんの地域の方々に手伝ってもらいました。今年はずわろを植えたので、どんな実がなるのか、どかほむさな木になるのか楽しみです。そして、実がなつた時は食べてみたいのです。記念植樹をして「もう卒業かい」としみじみ思いました。ガリロの花言葉のようには中学に行つても友達と別れて、たくましく成長してほしいです。

伊藤 胡桃

No. \_\_\_\_\_

ぼく達は、記念樹のいくつかの候補の中から、赤い花が咲いて実が食べられるザワロの木を多数決で決めました。

当日、ぼくは水を持って行く係になり、とても重かつたけど、友達と力を合せて運びました。みんなと一緒に穴をほつて、木を植えたことは、とても思い出に残ると思います。また、中学生、高校生、大人になつて友達とザワロの実でも食べに来たいと思いました。

一組 長谷川 研牙



私はこの記念樹を植えられて良かったと思  
います。なぜならザクワの花言葉が「団結」  
だと知って、今までみんなで団結してやっ  
きたたくさぬのことも思い出すことが出来た  
からです。そしてこれからの生活にも「団結」  
を加えていきたいと思っています。

何年かた、て大人にな、たり新羽の記念樹  
を植えた公園に行、てザクワを見て小学生時  
代をなつかしく思う日が来るのかと思うと、  
とても楽しみです。

二組 三堰 美央

記念樹をします最初にか。くりしたこ  
とは、先ばい遠か植えた木が、とても大きく  
な、ていたことぞす。その木が、昔ぼく達と  
同じように小さな木だ、たと思うと、ぼく達  
が植えるザクワの木がなだかすごい木のよ  
うな気がして、何となくうれしくなりました。

これから中学、高校へ行、て、何年後かに  
トルネード公園に遊びに来て、この木を見た  
ら、小学校のころを思い出せる気がします。

二組 宮井 湧



## 石榴(ザクロ)

新羽小学校長 渡部洋久

私の小学生の頃、家の裏に石榴の木があった。梅雨が明けこれから夏という時期に、真っ赤な花を咲かせていた。石榴の花の茎にちかいところに、大きめの「がく」がある。そのがくがだんだんとふくらんでいき、まるまるとした実になっていくのだが、花の落ちたがくの形が、まるで王冠のように、その実に残っているのだから、花がどのように実になるのかをよく分からせてくれる植物だった。その実は、夏が終わる頃、自然と裂け、その裂け目から、真っ赤な種がたくさん詰まっているのが見て取れた。石榴の種を口に含むと、夏のエネルギーが、自分の体に移ってくるような気分がしたものだ。

平成二十一年度の卒業生によって植えられた、記念樹は、花の里づくりの会から寄贈された木を、卒業前に、新羽小学校の六年生が記念に植えてきたものだが、今年で、五年目になる。最初の年から、ヤマボウシ、エゴノキ、シデコブシ、キンモクセイと二本ずつ植えてきたので、今年、九本目と十本目を植えたことになる。

ヤマボウシからシデコブシまでは白い花の咲く木だ。キンモクセイは、オレンジ色の花が咲く。それに対して、石榴は、赤い花が咲く。中国宋代の政治家である王安石は、周りが緑色濃い中で、赤く咲く石榴の花の様子を、「方緑叢中紅一点(ばんりょくそうちゅうこういってん)」と読み、これが「紅一点」の語源となったという。今年の卒業記念樹も、今のところ、紅一点だ。

この記念樹が毎年赤い花を咲かせるようになって、夏の太陽のエネルギーをたくさん、今年の卒業生たちにも届けることを楽しみにしている。



卒業記念植樹（H21年度）

記念植樹のお知らせをいただき、これまでの植樹の様子が記された「花の里づくりの会」の会報を読ませていただきました。植樹が今回で5回目となることや、ここに関わる数多くの地域の方々の思いが伝わり、改めて感謝の念を抱きました。

今回の「石榴」は赤い実のなる樹です。植樹をした6年生が中学校に進む夏頃には、花をつけると聞きました。子どもたちの成長と、樹木が花を咲かせ、実を結ぶ様子を重ねて想像しました。

子どもたちにとって、丘陵公園の記念植樹はきっと幼い頃のよき思い出となることと信じています。

新羽小学校PTA会長 安保 広美

新羽丘陵公園に前に植えた卒業記念樹



18年3月2日第1回植栽のときわ山桐子(21年5月23日撮影)

## 県立新羽高等学校の通学路美化整備



色とりどりの花と共に 県立新羽高等学校 副校長 濱宮太郎

6月の初旬、夏の訪れを感じさせる日差しの中で第1回の植栽が行われました。この植栽は、本校の正門を大竹方面に下がった所にある三角状の飛び地を花で飾るために、「花の里づくりの会」様からご援助をいただいて実施しているものです。環境美化委員の生徒とボランティアで参加した生徒の手で、三角地帯が色とりどりの花で埋めつくされました。1年生は初めての体験なので、とまどう場面も見られましたが、上級生は慣れた手つきで行っていました。

また、11月にも第2回の植栽を行い、寂しかった三角地帯が華やかに彩られました。前回の植栽の経験を生かし、生徒は自主的に活動を行っていました。

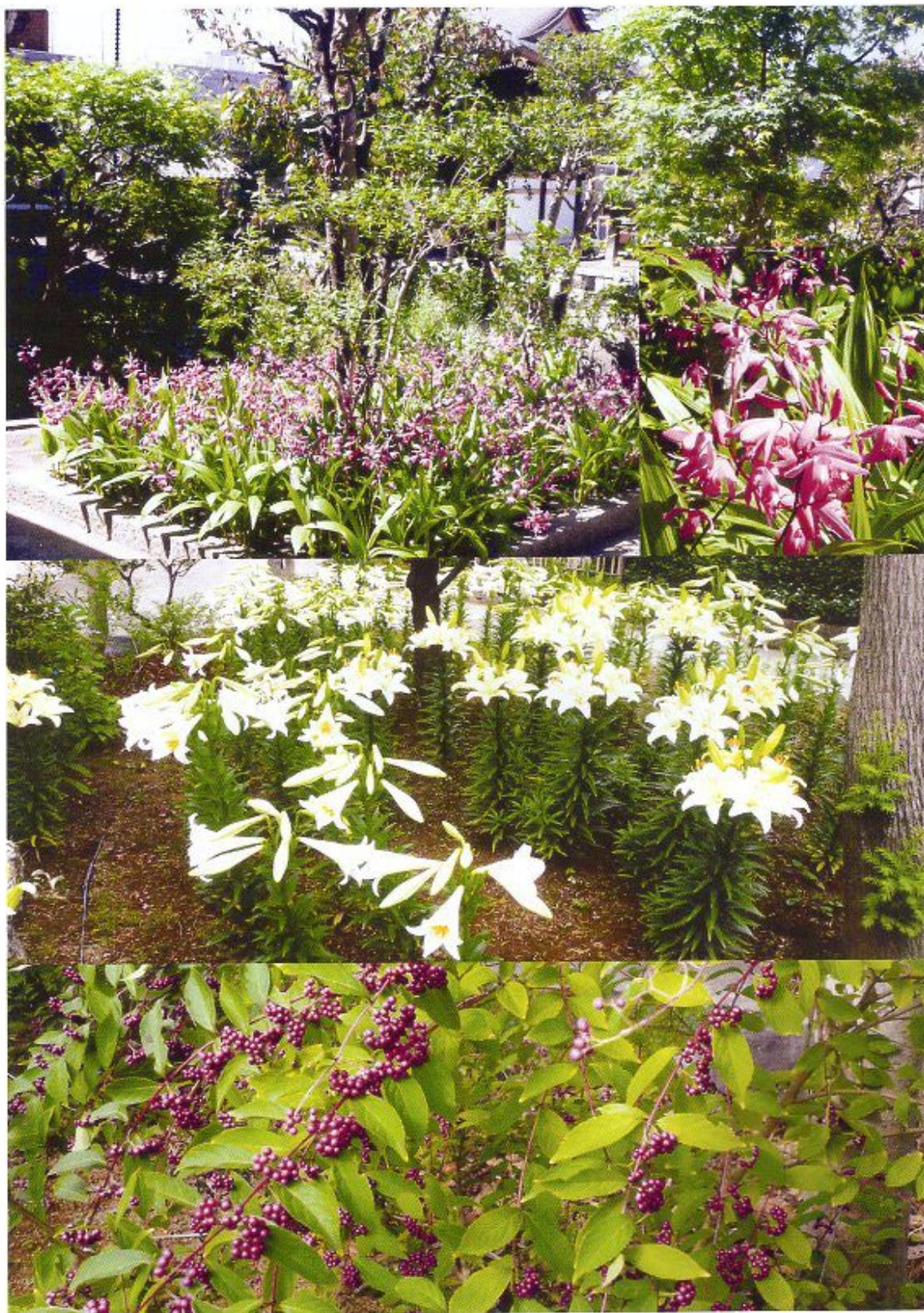
植栽は、地域の環境美化やボランティア精神育成のための本校の大切な行事になっております。このような機会を与えてくださいました「花の里づくりの会」の皆さまに心から感謝申し上げます。



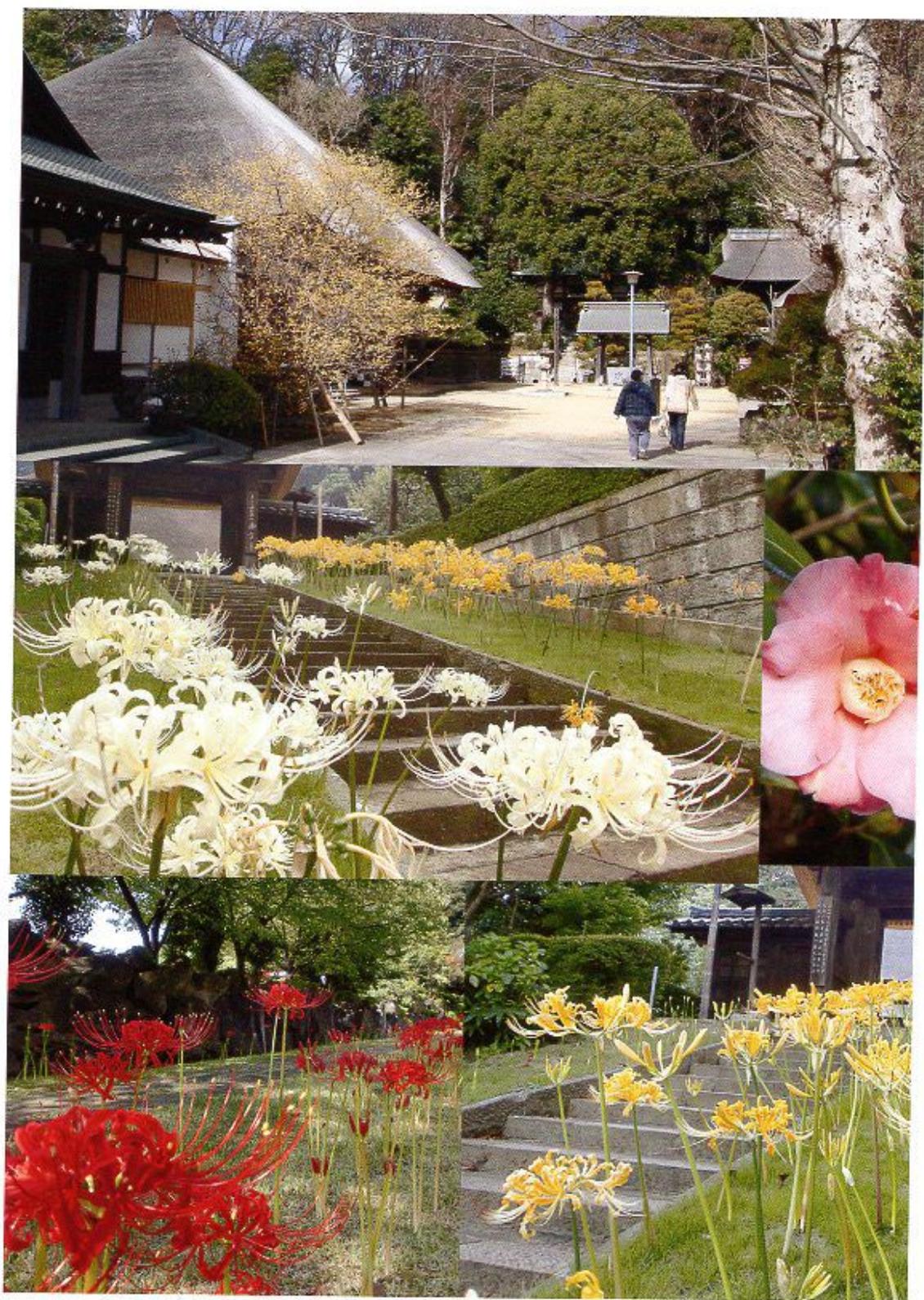
光明寺



善教寺



西方寺





新羽十字路のポケットパーク

本会の趣旨に賛同して参加いただける会員と新たな候補地としての寺社仏閣を、募集しております。ご希望の方はお申し出下さればご説明させていただきますので、会長宅までご連絡下さい。

花の里づくりの会 会報第六号 **2010年4月**発行

発行者 花の里づくりの会 会長 **中山 宏**

お問合せ先 045-541-5578 (事務局 中山宏 宅)